



ジョイセフ  
**JOICFP**

途上国の妊産婦と女性を守る

ジョイセフパートナーシッププロジェクト

“ザンビアの農村地域における  
妊産婦支援プロジェクト”

29<sup>th</sup> November 2010



COPYRIGHT: 今西礼子/JOICFP

# 【ジョイセフ パートナーシップ プロジェクト(JPP)】 妊産婦支援プロジェクト

プロジェクト期間:

2011年1月～2013年12月

対象地域: ザンビア共和国コッパーベルト州マサイ  
ティ郡フィワレ地区

マサイティ郡人口:11万7,000人

フィワレ地区人口:1万6,618人

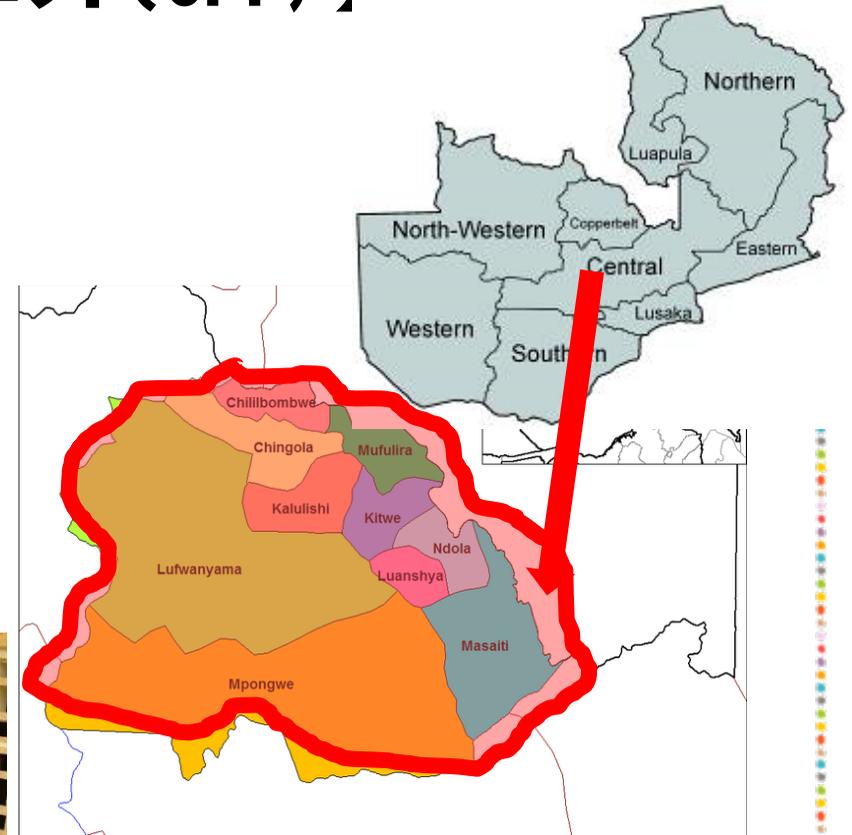
実施機関:

ジョイセフ及びIPPFザンビア(現地協力NGO)

予算規模:

3年間で15万ドル(5万x3年間)

+337万円(MODE for Charityでの支援金)



ザンビアの面積:74万平方キロメートル  
(日本の約2倍)

マサイティ郡:6800平方キロメートル

## 【ザンビアの農村地域の女性がおかれている現状】

①住民の妊娠や出産に関する知識・意識が低い  
(読み書きが出来る人が少ない、電気がなくTVやラジオもなく情報が不足)

②診療所が遠い  
(一番遠い場所で約28km、交通手段がない等)

③医師や助産師の医療従事者の不足、機材、医薬品の不足(マサイティ郡に医師は1名のみ)

妊産婦死亡率(出生10万対:ザンビア470、日本6)\*資料1

専門技能の立会いの下での出産:ザンビア 47%、日本100% \*資料2

資料1 : Trends in Maternal Mortality 1990-2008,  
WHO, UNICEF, UNFPA, The World Bank  
資料2 : 2010年世界人口白書

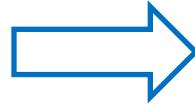


COPYRIGHT: 今西礼子/JOICFP



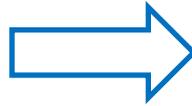
## 【活動の3本柱】

住民の妊娠や出産に関する  
知識・意識が低い



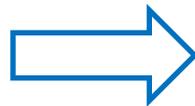
【①草の根レベルの人材育成】  
母推さん(母子保健推進員)の育成と  
住民への啓発教育

診療所が遠い  
(交通手段がない等)



【②アクセス改善】  
出産待機ハウス建設  
妊婦さん搬送用トライサイクル  
(荷台付きバイク)の活用

医師や助産師などの医療従事者の  
不足、機材、医薬品の不足など



【③診療所でのサービスの改善】  
診療所スタッフの研修  
出産に必要な備品の提供



診療所における分娩を増加させ、  
より安全な妊娠や出産を推進する

## 【①草の根レベルの人材育成】母推さん（母子保健推進員）の育成

住民保健ボランティアから140名を母推さんとして選出

母推さんの主な役割：“住民と保健サービスを繋ぐ重要な役割”

- 定期的な家庭訪問を通して妊婦さんに産前産後健診、施設分娩、家族計画を促進
- 巡回クリニックサービスにて助産師が行う産前産後健診、予防接種、乳幼児の体重測定などのサポートや健康教育セッションの実施
- 地域での啓発教育活動(歌や劇など)



日本の駅前放置自転車を保健ボランティアの足として活用



巡回クリニックサービスにて手伝う保健ボランティア



伝統的助産師による安全な妊娠と出産をメッセージとした歌と劇

## 【②アクセス改善】 出産待機ハウス建設

- 出産予定日の2週間前から宿泊可能
- 出産まで待ち、陣痛が始まったら隣の診療所内の部屋へ移動
- 宿泊無料で自炊も可能。8部屋で同伴者も同室に宿泊可



あまり使われていない現在の  
出産待機部屋



フィワレ診療所の裏側  
建設予定地



空間アドバイザーとして建築家の遠藤幹  
子さんから技術協力のご支援

## 【②アクセス改善】 出産待機ハウス建設

### 【コンテナを活用した出産待機ハウス】

コンテナの理由：

- ①コストと時間の節約
- ②Reuseするエコの観点

建設後、住民参加型の遠藤幹子さんの協力によるペインティングワーク  
ショップを開催予定



物資支援等で利用したコンテナ  
を活用



目を輝かせて完成を期待する  
マサイティ郡保健局長



出産待機ハウス計画の模型  
(設計協力:遠藤幹子/office mikiko)

## 【②アクセス改善】 トライサイクル（荷台付きバイク）の活用

- 出産前後の診療所に来る妊婦の送迎として活用
- 母子保健に関連した病気やけがなど必要な際に活用



ンドラの町にて販売されているトライサイクル

## 【③診療所のサービスの改善】

フィワレ診療所スタッフ:

助産師 2名

看護師 5名

その他事務員など3名

- 患者さんの立場に立ったコミュニケーション
- 出産に必要な備品の提供(消毒液、ゴム手袋、コットン等)



フィワレ診療所外観



分娩室



COPYRIGHT: 今西礼子/JOICFP

## 【企業からの寄贈品をプロジェクトで活用】

- 産前産後健診や乳幼児健診などで啓発教育活動の一環として衣料品などを配付
- 妊婦が安心して子どもを産むための環境作り(例えば、夫の協力を促したり、産着がないため診療所へ行かないお母さん達への動機付け)



ユニクロの支援による救援衣料の配付



そごう・西武の支援によるサッカーボール、子ども服・靴で元気よく遊ぶトリニティ君(4歳)



赤ちゃん本舗の支援による赤ちゃん肌着を受け取る妊婦さん(ベリーナ, 18歳)  
出産予定日は3日後



いつもご支援をありがとうございます

[www.joicfp.or.jp](http://www.joicfp.or.jp)